

対ガボン共和国 事業展開計画

2017年 4月 現在

基本方針 (大目標)	「台頭するガボン政策」の基盤となる分野に資する支援を展開する。
---------------	---------------------------------

重点分野 1 (中目標)	環境保全
-----------------	------

開発課題 1 (小目標) 環境保全	【現状と課題】 ガボンは、国土の約85パーセントにあたる広大な森林を有しており、アフリカ有数の木材輸出国であるが、人口増加や地下資源開発等を背景とした急激な森林減少や生物多様性の損失の恐れに直面している。2015年に同国が気候変動枠組条約（UNFCCC）に提出した約束草案においては、2025年時点の温室効果ガスの50%以上の削減（2000年比）という目標を打ち出しているものの、森林資源の把握は十分に行われておらず、森林の適切な管理体制や能力も未だ十分でないことから、持続的な森林管理に対する支援が必要とされている。			【開発課題への対応方針】 環境保全を推進するために、供与された機材を用いた技術協力の枠組みを通じて支援する。								
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	環境保全プログラム	森林保全、生物多様性保全、気候変動対策及びエコツーリズムの振興に関し、供与された機材をもとに技術協力を展開する。	太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画	無償	2015年度以前	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	6.70	
			持続的森林経営に資する国家森林資源インベントリーシステム強化プロジェクト	開発計画								
			ムカラバ地域におけるインタープリテーション手法を用いた地域参加型エコツーリズム開発	草の根技協								
森林分野における研修			課題別研修他									

重点分野 2 (中目標)	産業多角化の推進
-----------------	----------

開発課題 2 (小目標) 水産開発	【現状と課題】 ガボンは産油国であるため、国民一人あたりのGNIは高水準にあるが、多くの食料品は海外からの輸入に依存しており、農水産業等の第一次産業分野従事者の生活レベルは依然として低い。また、特に水産分野において、ガボンは、COREP（中部アフリカ諸国経済共同体（ECCAS）の水産専門機関）を通じた域内水産協力を進めようとしており、右取組に対する支援は有意義である。			【開発課題への対応方針】 水産及び農業分野における技術協力（水産分野は広域専門家を通じた技術協力）による支援を実施し、ガボンにおける食料自給率の向上を図るとともに、産業多角化への一助とする。								
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	水産プログラム	経済構造の多角化の一環として、輸入に依存している食料を国内で供給するため、漁民・農民の技術支援及び漁業活動の組織化並びに合理化を行う。	水産行政アドバイザー	個別専門家	2015年度以前	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		
			零細漁業振興アドバイザー	個別専門家								
			水産及び農業分野の青年海外協力隊・シニア海外ボランティア	JOCV/SV								
水産、農業分野における研修			課題別研修他									
国際漁業振興協力事業	農林水産省技協									大西洋沿岸アフリカ諸国漁業協力関係会議（ATLAFCO）への派遣		

重点分野3 (中目標)	その他											
その他	【現状と課題】 ガボンでは一人あたりのGNIが7,210ドル(2016年世銀)と高い水準にあるが、人間開発指標は188か国中109位と低迷している(2016年国連開発計画(UNDP))。ガボン政府は、社会的格差の大きさ(国民の3割が貧困層)を認識し、貧困削減及び社会不公正の是正に取り組むべく、社会契約(Pacte Social)を打ち出している。				【開発課題への日本の対応方針】 社会格差の是正に貢献するため、教育及び保健分野における青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの派遣及び草の根・人間の安全保障無償資金協力等のスキームを通じた支援を実施し、初等教育及び基礎医療等の社会サービスへのアクセスを向上させる。							
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	その他個別の案件	社会格差の是正のため、特に教育及び医療へのアクセス改善及び人材育成等に資する協力を展開する。	教育・保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	2015 年度 以前	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	1.90	
			公衆衛生上問題となっているウイルス感染症の把握と実験室診断法の確立プロジェクト	科学技術								
			アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)「修士課程及びインターンシップ」プログラム	国別研修								
			教育及び保健分野の青年海外協力隊・シニア海外ボランティア	JOCV/SV								
教育、保健、行政、エネルギー、投資分野における研修			課題別研修他									

【凡例】 「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(=個別機材)、「国別研修」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=青年海外協力隊)、「SV」(=シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」(=第三国研修)、「現地国内研修」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(=以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(=水産無償資金協力)、「食糧援助」(=食糧援助)、「一般文化」(=一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(=草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(=緊急無償資金協力)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(=円借款、海外投融資)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「中小企業支援」(=中小企業海外展開支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」及び「普及・実証事業」、並びに中小企業連携促進基礎調査)、「実線」(=実施期間)、「破線」(=実施予定期間)